

中国のシャドーバンキングの金融システムにおける役割と今後の課題*

—形成過程と機能の比較を通じて—

亜細亜大学 李 立栄

中国では、シャドーバンキング（影子銀行）と呼ばれる銀行以外の金融仲介が近年急速に発達し、実体経済の新規資金調達を半分以上を占める。近年の中国においては、制度化された金融システムの中核である銀行を通じた資金の流れが縮小し、理財商品などの資産運用商品を通じた資金の流れにシフトする動きが見られる。

このような現象は、「銀行離れ（financial disintermediation）」とも呼ばれ、米国では1970年代に預金金利規制を回避する目的で、コマーシャルペーパーやMMFに資金をシフトする動きがその始まりとされるが、近年は、さまざまな銀行規制を回避する目的で組成された複雑な証券化商品による資金調達が発達し、シャドーバンキングと呼ばれるようになった。2008年の世界金融危機の発生原因の1つとして、このようなシャドーバンキングの拡大が指摘され、国際的な金融規制を議論するG20金融サミット・金融安定理事会（FSB）も、シャドーバンキングの規制・監督強化に乗り出したことは記憶に新しい。

中国のシャドーバンキングが金融安定理事会（FSB）で議論された同一の事象であるかが明らかではない中で、中国のシャドーバンキング問題が新たな世界金融危機の震源地となる可能性を指摘する向きもある。しかし、その実態、形成過程、発展メカニズム、リスクは十分に明らかにされているとは言えない。

本報告は、中国のシャドーバンキングの変遷と実態を考察するとともに、その形成過程と機能、発展メカニズムを分析する。また、米国の事例と比較することで、中国のシャドーバンキングの金融システムにおける役割とリスク、今後の規制改革の方向性を明らかにする。

キーワード：シャドーバンキング、金融仲介、中国の金融システム、資産運用商品（理財商品）、フィンテック、金融包摂、規制監督

* 本発表は拙著『中国のシャドーバンキング—形成の歴史と今後の課題』（2022年5月、早稲田大学出版部）の一部を要約したものである。